



Amihari
visitor center

Vol.121

2025.7



舞い降いた森の宝石

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

* 網張の森の生き物たち *

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

アイノミドリシジミの尻尾飛翔

梅雨入りしても雨が降らず、一気に真夏になったような暑さが続いたある日、森の中でアイノミドリシジミに出会いました。この仲間は年に一回だけこの時期に成虫になるため、そろそろかな？と心待ちにしていました。午前中でも既に気温が28度を超えていましたが、沢沿いの木陰は多少暑さが和らぎ風もなく観察日和。観察スポットに足を踏み入ると、少し先の太陽光が差し込む上空で、小さくキラキラしたチョウ2頭が互いを牽制するようにクルクルと円を描くように飛び回っていました。それを目にすると、辺りに響き渡っていた沢の音が急に遠く感じ、空気の流れが止まったような不思議な感覚に包まれました。2頭は縄張りをめぐって、執拗に相手を追いかけて、もつれ合いながら飛ぶ「尻尾飛翔」を繰り返していました。メスとの出会いを高めるための熾烈な占有行動ですが、金緑色の美しい翅で高速に羽ばたく様子が何とも煌びやかで、目が離せなくなります。追尾をやめた1頭が足元近くに舞い降り、縄張りを示す意味合いなのか翅を開いて静止。間近で見る翅は磨き抜かれた宝石のような美しさ。すぐにまた他のオスを追いかけて、目まぐるしい飛翔が続行されました。名残惜しい気持ちでその場を離れると、再び沢の音が響き始め、それまでの異空間から現実に戻って来たように感じました。

What is "Ainomidorishijimi"?

「森林に棲むシジミチョウ」

シジミチョウ科

開張：約40mm

分布：北海道～九州

食草はブナ科のミズナラ、コナラ、カシワ、クヌギなどで主にミズナラの生える山地の落葉広葉樹林に生息している。オスは午前6時～9時頃にかけて活発に活動し、メスは日中にクリなどの花に訪れる他は林内にじっとしていることが多い。

(同定協力：岩手虫の会 成瀬 健一 氏)
(参考図書：「日本のチョウ」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

光 と 色 の
い ろ い ろ
- Point of view -

📷 No. 8

基本的には昼行性のツキノワグマ、その生態は変化している？

近年、人の生活圏にクマが姿を見せる事例が増加し、「アーバンベア」という新語も生まれるなど、社会的な懸念が高まっています。クマは日中だけでなく、人目を避けて夜間にも活動する傾向が見られ、環境の変化に適応して行動が複雑化している可能性が指摘されています。

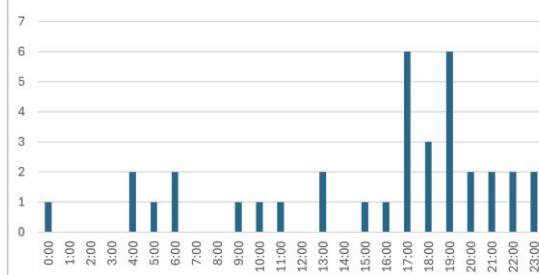


20230724 19:24 頃撮影



20250512 16:33 頃撮影

ツキノワグマの撮影回数と時刻（2016～2025）



縦軸は撮影回数、横軸は時刻。センサーカメラの設置場所は網張の森・スギの人工林。

これまでは、クマの生息する山林に立ち入る際、薄明や薄暮の時間帯を避けるよう呼びかけられてきました。網張で設置したセンサーカメラの記録からも、17時～19時頃に活発に動いている事が伺えます。

今回ご紹介する連続写真は、クマがカメラに近づき、かじって持ち去ろうとする一連の様子です。人工物への警戒が薄れ、まるで食べ物が入った箱と勘違いしているようにも見受けられます。こうした行動はこれまで網張では例がなく、他の野生動物においても見られない行動でした。人とクマの境界が「空間」だけでなく、「時間」や「人工物と自然物」といった観点においても、次第に曖昧になってきているのが気がかりなところです。



アミハリ・バース
Vol. 6 4

ひさかた あま かわら ぬ えどり うら なが かしものひ と まろ
久方の 天の川原に 奴延鳥の うら歎けましつ すべなきまでに 柿本人麻呂
(織姫は天の川のほとりで、ぬえ鳥のように深く嘆いておられた。)

ぬえ 鵲とは、妖怪や怪鳥の一種、あるいは正体が分からない不穏なものを指す言葉です。そのモデルになったと考えられているのが、夜に物悲しい声で鳴くことで知られるトラツグミです。ただし、鳴くのは必ずしも夜に限らず、網張では梅雨空の午前9時頃に鳴き声が聞こえてきた事があります。

トラツグミ

科名：ツグミ科
全長：約30cm
生態：漂鳥・留鳥
分布：全国

トラツグミは地面を歩きながら、ミミズや昆虫・クモなどを探して食べます。その際、小刻みに体を震わせ、腰を振る不思議な「ダンス」をみせ事があるそうです。こうした動きは、地面や落ち葉を揺らして隠れている獲物を驚かせ、見つけやすくするための行動と考えられています。



ヒー
ヒー(高い音)

k. Hirano '25



撮影日：2014年9月21日

ベスト写真で綴る！

「岩手山カレンダー」撮影エピソード（2）

－中山大太郎さん22年の軌跡－

8月「夏の夜」（ハ合目避難小屋にて）

撮影日：2019年8月7日



山小屋の思い出はたくさんあります。小屋番の方々には本当にお世話になり感謝しています。撮影から帰って来ると、夕食を作ってくれた方もいました。

この写真は、当初は星を流した撮影（タイムラプス）を狙っていました。撮影は夕暮れから暗くなる時間帯の一度きりのチャンスしかありません。撮影中に人の出入りなどがあり懐中電灯の光が入ると、もう撮影は終わりです。明るすぎて絵になりません。小岩井の一本桜のように、光が入らず新たに光るものがない場所は理想的ですが、「小屋と星空」の写真を撮りたいと何度もトライしました。30分ほど山小屋への人の出入りがないと良いのですが、なかなか上手くいきません。人の出入りを止めることはできません。星を流した撮影は諦めました。この日は半月で、月の光が山小屋を照らしていました。そして、その明るさに負けないほどの満天の星空が輝いていました。

本格的に山に登るようになったのは、職場の山岳部に入ってからです。山岳部は山の技術を高めるのが本来の目的なので、若い頃は我武者羅に登りました。米、味噌を背負って登ったナイロンがまだなかった時代です。山岳部では競争相手がいるので負けたくない思いもあり、本も読み漁りました。冬山理論や気象についてもかなり勉強しました。岩手山登山は登頂していないケースも含めると1,000回を優に超えています。しかし咲いている花を見ていないこともありました。登頂200回くらいの頃から、意識したわけではありませんが気持ちが写真に傾いていきました。「今日は山頂まで行かなくてもいい」と思うようになり、徐々に「遊びに行こう」という気持ちになっていきました。柳沢コース4合目の林を抜けた景色の良い場所や御神坂コースの大滝展望台にはよくコーヒーを飲みに行きますし、笠締めユキワリコザクラに会いに行くこともあります。柳沢コース新道6合目までシラネアオイを見に行くこともあります。お花畑、鬼ヶ城、屏風尾根…、「今日はあの場所でこの構図で撮ろう」と撮影目的で登り、その日はそのために使っています。岩手山は登頂目的ではない「遊ぶ山」となりました。

9月「盛秋」（大地獄 お花畑にて）

撮影日：2022年9月29日

岩手山に登りたいと思ったのは小学3年生の時です。花輪線に乗り、好摩辺りに差し掛かった際、ちょうど夕暮れ時の岩手山を見て「登ってみたい」と思ったのです。この景色は今でもはっきりと覚えています。そこがスタートだったと思います。学校行事で4年生では兜明神岳、5年生では姫神山に登りました。6年生は岩手山登山です。6年生になり、いよいよ登れると思っていた矢先、ツベルクリン反応が陽性となり行けなくなってしまいました。この時登れなかった悔しさが岩手山への思いを一層強めたのかもしれません。中学1年生の夏に初めて岩手山に登り、それ以来通うようになりました。

この写真は網張コースを登り、大地獄を越えてお花畑に向かう途中で撮影したものです。撮影日の4日前にも訪れましたが、紅葉が少し早く赤みが足りないと感じたため再度訪れました。毎年、紅葉の時期が近づくとも撮影に出かけますが、1週間くらいのズレがあります。また、その時の天候によっては1週間ほど見頃が続く時あれば、霜が降りて2日ほどで駄目になってしまうこともあります。良い紅葉に出会えるのはラッキーなことです。この写真では鬼ヶ城の岩肌にもう少し黄色が入れば良かったと思いますが、自然のものなので仕方ありません。

撮影した写真の中で最も多いのは秋で、少ないのは夏、絵になるのは冬です。秋は華やかですが、夏は平凡になってしまいます。良い写真が撮れた時は早く見たいという思いがあり、あちこち回らずに下山します。撮影中は感情が入っていますが、家に帰って見てみると大したことないと思うこともしょっちゅうあります。カメラで見た時は「使えるな」と思っても、2、3日置いて見てみるとガッカリすることもあります。「ここをこうすれば…」と、また撮影に向かうのです。「リベンジ」という言葉はよく使う言葉となっています。



6/14「網張の森さんぽ&写真入門」



風がなく曇天の撮影日和。講師より写真撮影の構図やポイントを教えていただき、撮影を楽しみながら緑が鮮やかな初夏の森を歩きました。普段は通り過ぎてしまうような被写体にも目を向け、撮影を通してじっくり自然と向き合う時間にもなりました。「山に來たくて参加したが、とても楽しく写真以外に心でも撮ることができた」「構図がとても勉強になった」参加者感想より。総勢 15 名

7/5〜7/9「夏の網張の森ヒメボタル観察会」

天候に恵まれ気温が高く風のない良い条件が続きました。観察スタートのキャンプ場入口から参加者の皆さんもすぐにヒメボタルを見つけることができ、森の奥では更にたくさんの光に出会いました。目の前を横切るホタルに参加者は「かわいい」「メスに出会えるといいね」など声をかけていました。



ありがとうございます! 2005 年 1 月 17 日の開館以来 来館者が 40 万人になりました!



6月7日の正午過ぎ、40万人目の来館者はテラスから入館されました。岩手山模型や「岩手山の成り立ち」の映像等をじっくり見学していたので、くつろぎスペースに來られたタイミングで声をかけました。鞍掛山登山の帰りに立ち寄られた盛岡市のご家族で、モモンガやオコジョなどにも興味があると話して下さいました。「祝 来館者 40 万人」の垂れ幕を下ろしていただき認定証と記念品をお渡ししました。これまで来館された皆様に感謝すると共に、これからも自然との素敵な出会いの場となり、愛される施設であり続けたいと思いを新たにしました。

ヤマアカガエル赤ちゃん 今年は 67 匹 森へ帰りました!

6/28 ミニ企画「カエルの赤ちゃんを森に帰そう」での様子。7/1 最後の 5 匹卒業。



国立公園で楽しむ親子の自然体験

7/19『ナイトハイクと星空観察☆』



星の先生より、星座盤の見方や今夜見られる星座、望遠鏡では星がどのように見えるかなどのお話を伺ってから、グレンデまでナイトハイク。グレンデでは芝生に寝転んで夏の三角、さそり座、天の川等を観察し、望遠鏡ではアルピレオを観察。宮沢賢治のお話もありました。「星は動かないの?」不思議に感じることにもし出会えたようです。総勢 34 名

5/23 フレンド滝沢「春の遠足」

滝沢市内の中学生 4 名 保護者 1 名引率 2 名。網張の森散策と草花のたき染めを体験しました。



インフォメーション



国立公園で楽しむ親子の自然体験



8/9(土)『夏休み!親子で楽しむ だて先生の昆虫観察』

9:30~12:00 網張ビジターセンター集合

講師:伊達 功 氏(岩手虫の会)

定員:親子10組20名 ※要事前予約

8/24(日)『草花であそぼう!』

いろいろな草花を奏でてみよう♪

9:30~12:00 網張ビジターセンター集合

講師:松木 佐和子 氏(岩手大学講師)

定員:親子10組20名 ※要事前予約



9/7(日)『おかわりしたくなる!炭火炊飯体験』

10:00~14:00 網張ビジターセンター集合

講師:坂内 信彦 氏(炭焼き人)

定員:親子10組20名 ※要事前予約

※上記行事 参加料:大人800円 中学生以下400円

9/20(土) 市民火山教室

『鞍掛山の火山灰から知る岩手火山の成り立ち-Part1』

9:00~12:00 たきざわ自然情報センター集合

講師:土井 宣夫 氏(岩手火山地質研究所所長)

定員:10名 ※要事前予約

参加料:大人800円

小学生以下400円

共催:滝沢市・滝沢市山岳協会・

(一社)滝沢市観光物産協会



7/23~8/27 夏休み特別企画

「網張の森の昆虫たち」

網張の昆虫写真、昆虫標本、チョウ類などの展示に加え、昆虫スケッチやクイズコーナーも設置しています。森の豊かさや生きものについて考えるきっかけとして是非ご覧下さい。



◆◆現在開催中のビジターセンター企画展◆◆ 7月1日(火)~8月31日(日)

- 工藤 義之 絵画展 - 「巨岩石のある景色 水彩画展」



登山をしていますと、なんでこんな高い場所に個体の巨岩石があるのだろうかと思うことがあります。有名な画家でアンドリュウ・ワイエスという方が巨岩石を描いているのを見て、自分もと岩手県内の巨岩石を探し、水彩画の風景画として巨岩石を描いてみました。蛇紋岩・火成岩・堆積岩・変成岩等数億年前に出来て、この世に存在している姿は正に万物の誕生の源です。風景の中にある巨岩石の有様を眺めて、改めてその存在感の素晴らしさを感じていただければ幸いです。- 出展者の言葉(一部抜粋)より -

モモンガのつぶやき

昨年末、網張の森の危険な木伐採作業が環境省により行われました。園路沿いにも断面の新しい切り株がいくつか見られます。ビジターセンター駐車場からほど近い園路沿いに存在感のあるミズナラの切り株があります。岩手山地区パークボランティアの方が、年輪が見やすいようにと鉋を掛け、年輪に目盛りを記して下さいました。樹齢はなんと 187 年! 歴史を感じながら年輪を指でなぞってみました。昨年まで葉も実も付けていた大木、森が薪炭に利用されていた時代にも生き残った大木でした。別の切り株からは、早くもひこばえが出ていました。(C)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 5月 1, 556人 ◆ 6月 1, 472人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 5月 7.9℃ ◆ 6月 14.1℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館 夏期 (4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時